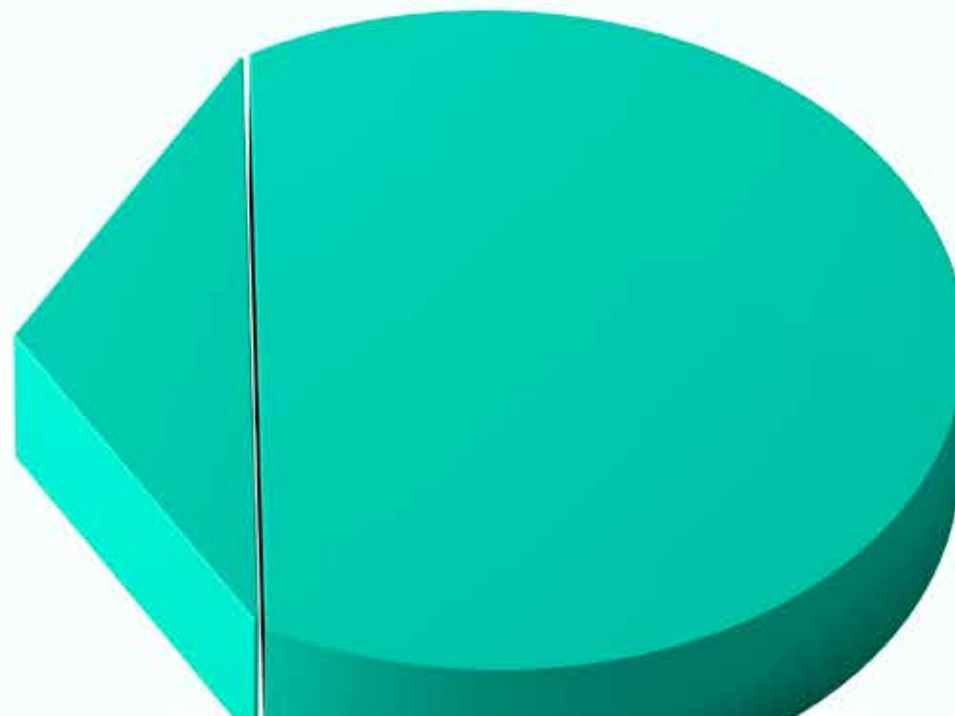


A 3D pie chart slice is positioned in the upper center of the page. It is a teal-colored slice with a black outline. The text 'IBM Cloud' is printed in black on the top surface of the slice.

IBM Cloud

Cloud Managed Services: 比較ガイド

クラウド・プロバイダーを選ぶポイント



なぜマネージド・クラウドなのか?	3
クラウド・マネージド・サービス・プロバイダーに何を期待すべきか?	4
選択: どのようなオプションがあるか?	5
セキュリティ: そのプロバイダーは本当に自社のデータやアプリケーションを保護できるのか?	9
管理: プロバイダーにできることは実際には何か?	13
グローバル拠点: そのプロバイダーは場所、方法に関して、求めることに応えているだろうか?	17
他社が及ばないところでも、IBM ならサービスを提供	20
IBM はお客様のクラウドの旅の始まりから移行そして目的地を理解	21
検討中のクラウド・マネージド・サービス・プロバイダーへの質問リスト	22
さらに詳しく	23

なぜマネージド・クラウドなのか？

企業が今求めているのは、お客様に説得力溢れるエクスペリエンスをもたらす、革新的なビジネス・モデルを作り出し、ビジネスの俊敏性を高めることです。その実現をクラウドに期待しています。重要なワークロードをセキュアで信頼できるクラウド・インフラへと移行し、既存の SoR (Systems of Record、従来型の基幹システム) と新しいモバイルやソーシャルのアプリとダイナミックに連携させることに、注目が集まっています。これは簡単なことではありません。そのため、多くの企業がクラウドの導入と管理にプロバイダーの力を借りています。

マネージド・クラウドで最大のアドバンテージを

クラウド・マネージド・サービスの導入で、企業にとって重要な項目についてより適切なサポートが可能となります。

ワークロードと環境のマッチング – CRM、ERP または会計のような、特定のワークロードに適したインフラ環境をそれぞれ展開できます

アプリケーション・ライフサイクルの最適化 – アプリケーションの最初の実証と開発/テスト用に 1 つインフラをセットアップし、本番稼働用に 1 つセットアップし、それぞれ最良の結果が出るように構成できます

アプリケーションの分割 – Web アプリケーションのフロントエンドやデータベースのバックエンドのような、アプリケーションの構成に合わせて最適なインフラを調整できます

迅速なスケーリング – IBM のプラットフォームは極めて構成しやすく、導入初日から適切なサイズでサーバー環境を使用し、必要に応じて拡大したりすることができます。IBM のマネージド・クラウドは、サービスの迅速なアクティブ化と非アクティブ化、そして、インフラのモニタリングとレポート作成、さらに、セキュリティとパッチの管理などのようなエンタープライズに求められる機能を備えたソリューションです。IBM がお客様のインフラを担当し、お客様はイノベーションに集中できるように、デザインされています。

適切なプロバイダーを選ぶことで実現できること:

- CAPEX を増やさずに最適なインフラへアクセス
- 自由な選択でビジネスの俊敏性を向上
- 安定したパフォーマンスで保証されるサービス・レベル
- グローバルに提供される、強化されたセキュリティ
- 利用量ベースの料金設定で低リスク、低コスト
- ビジネス価値の高い業務に集中できるよう、多忙な IT スタッフの業務を低減

マネージド・クラウドに最適なワークロードとは？

- マネージド・クラウド・サービスには、あらゆる形態とサイズのエンタープライズ・レベルのワークロードが最適です。これに理想的に当てはまるのは、クラウドからの容量追加を必要とするような周期的に拡大したり縮小したりするワークロードやクラウドとオンプレミスのシステム間を連携するようなアプリケーションです。

エンタープライズ・アプリケーション

- ERP、CRM、SAP、Oracle または社内製のアプリケーションなどの重要なバック・オフィス・アプリケーション、つまりクラウド用に作成されていないアプリケーション

- 基幹業務アプリケーションおよび部門別アプリケーション

- 業界固有のコア・アプリケーション

アプリケーションのライフサイクルにおけるワークロード

- 開発/テスト

- ロード・テスト

- 品質保証

- 本番稼働前

- トレーニングおよびステージング環境

「**実に 91% もの企業**がクラウド導入に際し支援を求めており、うち 13% がマネージド・サービス・プロバイダーに相談しています。」

- Frost & Sullivan、クラウド・ベース・マネージド・サービス: IT 部門の改革に役立つプロバイダーを選択するためのヒント

クラウド・マネージド・サービス・プロバイダーに何を期待すべきか?

マネージド・クラウド・プロバイダーはお客様の一部のニーズではなく、すべてのニーズを満足させるものでなければなりません。

選択 – お客様のビジネスに重要なアプリケーションを実行するOSとハードウェアをサポートする、インフラ、ロケーション、サービスおよびデリバリーに関する選択

セキュリティ – お客様とプロバイダー間の責任の所在が確認された、ビジネスに必要な最高レベルのセキュリティ

管理 – インフラ、プラットフォーム、アプリケーションのサポートといった、クラウドをエンドツーエンドで管理できるスキル

グローバル拠点 – 法規制やビジネス要件が重要な地域でのデータやアプリケーションのハウジング

クラウドの導入と管理に適したプロバイダーを選択することは、簡単なビジネス決定ではありません。セキュリティ、サービス、テクノロジー、専門知識や提供能力にずれがあると、重大な結果を招く可能性もあります。

クラウド・マネージド・サービス・プロバイダーの専門性

インフラ、ワークロード、アプリケーション管理および提供サービスに関するコアな専門知識 – 自社のビジネス・ニーズを理解し、最適なソリューションを提案して、確実に成功する方法で実行することのできるプロバイダーを探してください。

複数機種のハードウェアとハイパーバイザーへのサポート – ワークロードとそれをサポートする最適なインフラをマッチングできるプロバイダーかどうか、よく確認してください。

ハイブリッド環境管理の専門知識 – 複数の物理環境と仮想環境の間でワークロードやデータを分割し、最大限のコスト・パフォーマンスを引き出すことができるプロバイダーが必要です。

カスタマイズ可能なサービスとSLA – 具体的なサービス・パラメーターへの保証や、自社のニーズに合わせたサービス調整の可否など、お客様のビジネス・ゴールに沿ったものを探してください。

堅固なセキュリティ – ワークロードとデータに常にアクセスできるよう、お客様ご自身以上にセキュリティに関して専門性や能力を備えたプロバイダーを探してください。

コンプライアンスの保証と関連するレポート作成 – プロバイダーがコンプライアンス適合を証明できるか、そして規制要件を満たす総合的なレポートを提出できるか、確認してください。

マネージド・サービスの堅固なポートフォリオ – 基本的なクラウド・マネージド・サービスのオフリングを超えた、付加価値に注目してください。環境構成、ガバナンス、そしてERPやCRMなどの特殊なワークロードの管理といった業務への支援です。

選択: どのようなオプションがあるか?

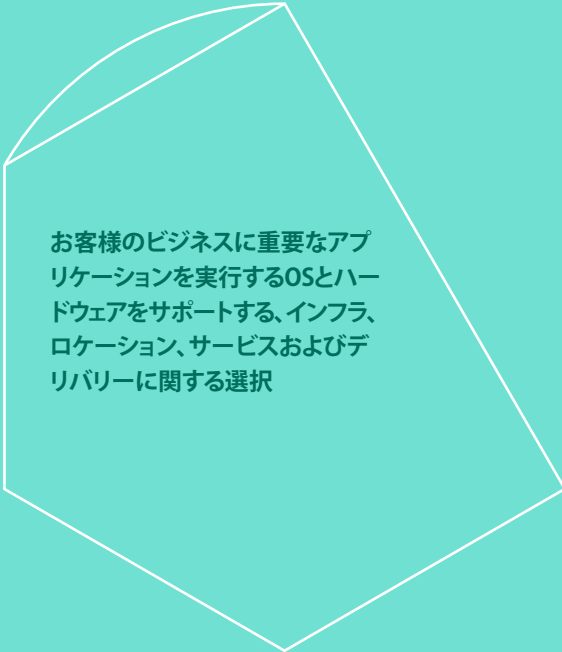
「優れたプロバイダーは、アプリケーションやインフラだけにとどまらず、お客様のビジネスのニーズとゴールを満たすためにスタッフ増強やリソース管理を実行する専門性も提供します。」

— Frost & Sullivan、クラウド・ベース・マネージド・サービス: IT 部門の改革に役立つプロバイダーを選択するためのヒント

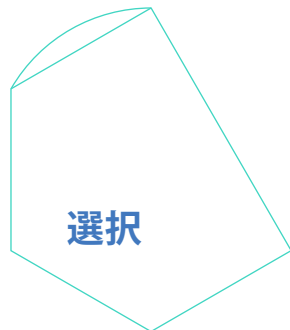
すべてのクラウドが同じように作られているわけではありません。これはクラウド・プロバイダーにも当てはまることです。クラウド・マネージド・サービス・プロバイダーは柔軟にお客様に (ハードウェア、OS、プラットフォームのコンポーネントなどの) 選択肢を提示し、お客様のクラウド展開をビジネスやワークロードの要件に合わせる必要があります。

すべてのプロバイダーが必要な選択肢を提供できるとは限らないのはなぜでしょうか?

一部のプロバイダーは、フリーサイズのインフラを提供しています。このインフラでは、最適なコスト・パフォーマンス、既存のスキルやリソースの有効活用、そしてビジネスに重要なアプリケーションやデータをクラウドに展開する際の高度な SLA 保証が必ずしもできるというわけではありません。これらのプロバイダーは、オフプレミスで仮想マシンだけのパブリック・クラウド・インフラを提供していることも多く、これにはコスト・パフォーマンス、管理やセキュリティに関する懸念が伴います。



お客様のビジネスに重要なアプリケーションを実行する OS とハードウェアをサポートする、インフラ、ロケーション、サービスおよびデリバリーに関する選択



インフラ、拠点地域、サービス、
デリバリー、OSおよびハード
ウェア

クラウド導入の際、選択に関連して質問すべきこと

「どれくらい迅速に稼働できますか？」

高速なプロビジョニングでの DevOps、新しいビジネス・モデルや革新的なアプリケーションの迅速な展開は、クラウドへ移行する主な理由の1つです。これはつまり競争上の優位性を得ることを意味します。多くのプロバイダーは、仮想 CPU、ストレージやネットワーキングなどのインフラのみを提供しています。これらを構成、管理するのはお客様ご自身かサード・パーティーであり、その労力が会社としての負担になる可能性があります。

完全にプロビジョンされた、準備万端の環境を探しましょう

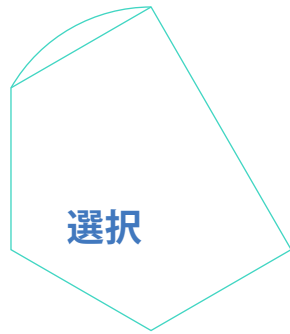
検討に値するプロバイダーとは、セルフサービス機能や自動化により、クラウド環境を素早くプロビジョンし、DevOps で高い生産性を達成して市場提供までの時間を短縮できるよう支援するものです。OSは最新のレベルにパッチが当てられ、ミドルウェアはインストール済み、仮想マシンが完全に構成済みであり、すぐに使えるようにテストや検証が完了しているものでなければなりません。

「どのようなハードウェアやOSを選択できますか？」

クラウドへの移行時には、パフォーマンスを最適にするために、ワークロードの特性とインフラを調整するのがベストです。既存のインフラとマッチすればするほど、タスクは簡単になります。つまり、リスクやコストは小さくなり、俊敏性は増して市場投入までの時間が短縮します。

プロバイダーのニーズではなく、お客様のニーズに即したOS環境を見つけてください。

プロバイダーには、様々なOS環境をサポートできる能力が求められます。そうすれば、クラウドと既存の環境やスキル・セット (Red Hat Enterprise Linux on x86、Microsoft Windows on x86、または IBM Power Systems 上の IBM AIX のようなプロプラエタリーなOS) をぴったりと適合させる必要があるからです。加えて、サイズ固定の展開ではなく、インフラおよびプラットフォームのサービスとワークロードのニーズが正確に一致するように調整できるベンダーであることが重要です。これにより、お客様のビジネス目標を最大限満たすインフラでの展開が可能になります。



インフラ、拠点地域、サービス、
デリバリー、OSおよびハード
ウェア

「サービス・レベルを満たすことができるプロ バイダーですか？」

必要としているパフォーマンスとサービスのレベルをクラウドが信頼性をもって提供できるのかどうか不安を感じているため、まだクラウド戦略を策定していない企業も少なくありません。問題は、インフラだけではなく、その上で実行されるOSもまたサービス・レベル要件を満たす必要がありますが、一部のプロバイダーはサーバー、ストレージおよび/またはネットワーキング用の SLA のみを提供しています。つまりお客様が責任を持たなければならず、これによりビジネス・リスクが増加することになります。

マネージド・クラウド環境全体を保証する SLA を探してください

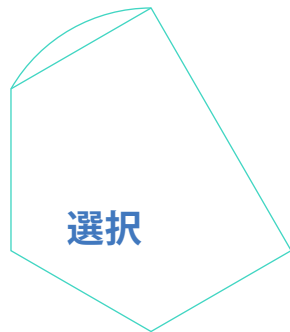
異なるワークロードには異なる SLA 要件があり、プロバイダーは適切なレベルや価格でワークロードの特性に基づいた SLA を提供できなければなりません。SLA は IaaS および PaaS をカバーし、さらに OS のレベルまで拡張されている必要があります。

「ビジネス全体で一貫性のあるエクスペリエ ンスを提供できるプロバイダーですか？」

お客様やビジネスの期待値を満たすためには、同じインフラ、ソフトウェア、プロセスおよびマネージド・サービスを適所に備えていることが重要です。これは特に、災害復旧、ワークロード移行およびグローバルなエンタープライズのシナリオでは重要です。一貫性があると、SLA が満たされていることが確信でき、技術およびパフォーマンスの潜在的な問題に関するリスクを最小限に抑える際に役立ちます。

IBM は、一貫性のあるインフラ、マネジメント・プラクティス、デリバリー・チームをワールドワイドに提供しています

IBM データ・センターのハードウェアとソフトウェアは常に更新されているため、最新でなかったりパッチが当てられていないインフラを使うことはありません。ローカルでもグローバルでもアーキテクチャーと機能は均一で、展開とサービスの提供が標準化されているので、リスクや煩雑さを抑えることができます。



インフラ、拠点地域、サービス、
デリバリー、OSおよびハード
ウェア

「パブリック・クラウドとプライベート・クラウド を組み合わせることはできますか？」

展開時の選択内容に応じて、お客様のワークロードとビジネスの要件に最適のクラウドが選択できます。たとえば、コスト効率の良い、迅速なスケーラビリティを求めてパブリック・クラウドを選択するのか、あるいは、ビジネスに一層の俊敏性を得るために、一貫性のある管理機能を備えてDevOpsをシンプルに実践できる、より強固なセキュリティ機能を求めてプライベート・クラウドを選択するのか、などです。

選択肢と一貫性の両方を提供しているクラウド・ポートフォリオを探してください

セキュリティ、スケーラビリティおよびSLA要件に基づいて最も合理的であると考えられる場合に、企業のワークロードの様々な部分（たとえば異なるSAPモジュール群）を展開できるようなマネージド・クラウド・プロバイダーが必要です。これは、パブリック・クラウドでもプライベート・クラウドでも、同じプロバイダーがすべてを提供することを意味します。新しいニーズや競合他社の脅威に速やかに対応し、ビジネスの俊敏性を高められるように、管理はシンプルに合理化されていなければなりません。

「こちらのニーズをどれくらい満たしてくれる プロバイダーでしょうか？」

クラウド・マネージド・サービスがお客様のオプションを制限することはあってはなりませんが、サード・パーティーに頼ってそれを行っているプロバイダーも多くあります。これにより関係に複雑性やリスクが増え、サービスとスキルのギャップが発生する可能性があります。全体的な専門知識やすべてを網羅したサービスを提供できる能力に着目することが、ビジネス成果の向上に役立つと考えられます。

お客様のニーズを隅から隅まで一社で満足させられる、プロバイダーを探してください

プロバイダーは、必要な知識、サービス・ポートフォリオ、スキルや経験を社内に幅広く備えている必要があります。プロフェッショナルなサービス（移行および戦略、提供モデルの選択肢や、お客様自身のハードウェアを使用するオプション）を用意してクラウドに付加価値を付けられる、一社をパートナーとしてください。

セキュリティ: そのプロバイダーは本当に自社のデータやアプリケーションを保護できるのか?

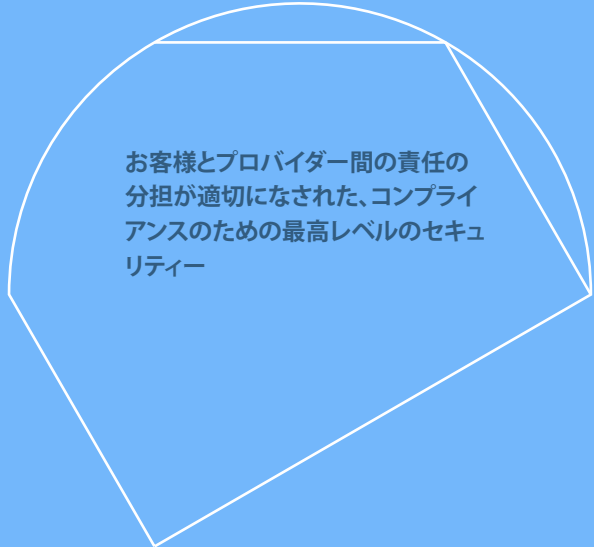
「今日では、大半の CxO がその役職にかかわらず、IT セキュリティがトップ・リスクだと認識しています。」

– IBM Institute for Business Value、境界線の再定義: グローバル経営層スタディーからの洞察?

有効なセキュリティを備えていないと、重大な危険を冒すことになります。セキュリティ違反によって大切なクライアントが去る、将来的な顧客からの信頼を失う、業界内での評判を落とす、そして規制当局からのペナルティーが与えられるなどの可能性があります。クラウド・プロバイダーがクライアント・データを自分たちのデータと同様に扱うべきなのは、このためです。クラウドは、セキュリティ違反への対応に適用される、「フィックス」のセットではなく、設計の一部として最初からセキュリティを組み込んで構築されている必要があります。

すべてのプロバイダーが適切なセキュリティを提供できないのはなぜでしょうか?

プロバイダーは自社のクラウドが非常にセキュアであると主張するかもしれませんが。しかしインフラ、サービスおよび物理的セキュリティの間にギャップがあると脆弱性をもたらす可能性があります。中には、サード・パーティーが提供するセキュリティ・サービスを利用してこれらのギャップを埋めるプロバイダーもいますが、これはリスクに晒される危険を増やすこともあります。また、クライアント側にも、データやアプリケーションがクラウド上にあってもそれらを安全に保護するよう努める一定の責任がある、と考えられます。サード・パーティーがセキュリティ・オプションを提供することもあります。リスクに晒される危険は高まります。必要なのは、プロバイダー自身からの多層防御です。つまり、最大限のマネージド・セキュリティ・サービスが組み込まれていて、クライアントのコンプライアンス遵守やデータ・レジデンシーのニーズを満たす能力があり、レポート作成や脆弱性保護を強化する追加サービスを持っているということです。



お客様とプロバイダー間の責任の
分担が適切になされた、コンプライ
アンスのための最高レベルのセキュ
リティ



セキュリティ

お客様とプロバイダーとの
間の適切な責任分担

データのインフラとセキュリティについて質問しておくべきこと

「データは正確にはどこにありますか？」

すべてのプロバイダーが、お客様が望む場所にデータを保存できるわけではありません。お客様は、自分のデータやアプリケーションが実際に保存されているデータ・センターのセキュリティやリスク・エクスポージャーに関しては、知ることはできません。データの主導権を要求して、特定の場所にデータを保存するよう求めることができる場合もあります。これは、データはお客様が置いた場所に維持されるという保証なしには受け入れられないことです。

お客様のインフラとデータに対するコントロールを持ちましょう

プロバイダーは、お客様がデータを保存する場所として合意した国に、データを維持しておかなければなりません。またプロバイダーは、サード・パーティーに依頼するのではなく、ビジネスを行うプロバイダー自身のインフラ上にデータを保存できるよう、十分に大きなデータ・センター・ネットワークを持っていなければなりません。加えて、災害時にデータが保存される場所がお客様に分かるように、プロバイダーはセキュアな災害復旧サイトを備えておく必要があります。

「セキュリティに関する責任は誰にありますか？」

攻撃のモニタリングや防御からセキュリティ・パッチの適用、インフラストラクチャーの強化やアクセス管理まで、セキュリティの維持は終わりのないタスクです。必須事項のすべてについては責任を持ってないプロバイダーもいます。候補と考えているベンダーと共同で作業する際に、彼らがどのレベルのセキュリティ・コンプライアンスを提供するのか、そして遵守性を証明するためにどれくらいの労力を費やすのか、理解することが重要です。責任所在の分け目はどこでしょうか？ サーバー・ハードウェアをお客様に提供した時点で、ワークロードのセキュリティやコンプライアンスに関するすべての責任はお客様にあるとするプロバイダーもあります。

プロバイダーが自身のセキュリティを管理する方法に注目しましょう

プロバイダーは、自身のシステムを保護しているのと同じツール、規格やメソッドを使用して、クライアントのクラウド導入へセキュリティを提供しなければなりません。またプロバイダーは、マネージド・クラウドに関する事柄について、お客様やサード・パーティーに任せるのではなく、全責任を負うことができなければなりません。プロバイダーとクライアントのセキュリティに関する責任は、ギャップがないように明確に定義されている必要があります。



セキュリティ

お客様とプロバイダーとの
間の適切な責任分担

「プロバイダーのセキュリティが十分であるかどうか、どうやって分かりますか？」

クラウドがセキュアでコンプライアンス義務を満たせませすという宣言だけでは十分ではありません。お客様には規制要件の遵守に対する責任があるため、プロバイダーには規格を満たせるよう支援する能力が必要です。多くの証明書を提示するプロバイダーもあるかもしれませんが、よく見るとその保証内容は一部のサービスや場所にだけ適用されるものかもしれません。継続するセキュリティには、ポリシーや手順と同時に、インフラ全体（ハードウェアおよびソフトウェアの両方）を網羅した、脆弱性の定期的スキャンも含まれていなければなりません。

セキュリティとコンプライアンスの品質を確認しましょう

ISO 27001 と 27018 標準の認証を確認してください。PCI 標準 (PCI-DSS) のコンプライアンス要件を満たせるような環境を、ベンダーが提供できるかどうか確認してください。すべての認証とセキュリティ対策は、毎年外部監査員によって検証され、AICPA Service Organization Control (SOC) レベル 1 および 2 のレポートによって示されるエビデンスが必要です。

「セキュリティ対策はどの範囲にまで及んでいますか？」

セキュリティの脅威は、ネットワーク、マルウェア、不正アクセス、ソフトウェアの悪用、さらに物理的な盗難など、どこからやって来るかわかりません。セキュリティにおけるいかなるギャップも、お客様の企業を脆弱なものにしかねません。すべてのクラウド・プロバイダーが包括的な機能を提供して、お客様のクラウド、データ、さらにはアプリケーションの保護を支援できるわけではありません。その結果、お客様にセキュリティの負担がかかることになります。

セキュリティを徹底的に確認しましょう

プロバイダーは、データ・センターからOSに至るまで、多層のセキュリティを構築する必要があります。クラウドは、Tier-3 (または同等の) データ・センターでホストされ、最善の組み合わせの物理的セキュリティを備えていなければなりません。損失に備えて、サーバー・インスタンスとストレージはお客様のデータを隔離するために分離されていて、バックアップ・メディアは暗号化されている必要があります。またセキュリティではサービスの一環として、管理対象環境用に提供される脆弱性管理で OS、データベース、およびミドルウェアをカバーする必要があります。



セキュリティ

お客様とプロバイダーとの
間の適切な責任分担

「もし不具合が発生した場合は?」

障害からすみやかに復旧できなかった場合には、お客様の業務に甚大で長期的な影響が及んでしまうかもしれません。収益や生産性の損失よりも深刻な被害があります。それは、適切に障害に対応できなかった場合に、取り返しがつかないほど顧客の信頼を失ってしまうということです。

後からの思いつきレベルではない、バックアップやリカバリーを探しましょう

代替のサイトの災害復旧を提供し、すみやかに元の業務に戻れるように支援できる、災害中も有効な本番レベルの SLA を持つプロバイダーでなければなりません。この能力は定期的に検証される必要があり、お客様が信頼できる最適なプランを策定できるよう、災害復旧のコンサルティングが行われている必要があります。

「IT セキュリティでどれくらいの経験があるプロバイダーですか?」

セキュリティとは、非常に複雑な、システムに関する問題です。ここでは経験がものを言います。なぜなら、すべてのプロバイダーが自身の限られたサービス・セットやコンピテンシーを超えるような脅威を経験したわけではないからです。プロバイダーがさまざまなセキュリティ問題を経験し、それらに的確に対応したかどうか重要です。

エンタープライズのコンピューティングにおける経験を確認しましょう

プロバイダーは、管理の点で業界のベスト・プラクティスを満たすかそれ以上のセキュリティ管理を実施し、すべてのクライアントに標準的なセキュリティ・ポリシーを同じく適用している必要があります。ベンダーに、堅固なセキュリティ機能で信頼性や回復力のある IT サービスを提供してきたという過去の記録をたずねてください。従来型のエンタープライズ IT とクラウド・セキュリティにおけるベンダーの成功が証明されることで、お客様のクラウドも同じように保護されるという安心感を得ることができます。

管理: プロバイダーにできること とは実際には何か?


「Frost & Sullivan によると、自身でクラウド環境を管理する企業は、IaaS に支払う 1 ドルに対して 3 ドルから 5 ドルのコストをかけています。」

– Frost & Sullivan、*予算超過を回避する: クラウド IT 経済の評価ガイド*³

クラウドの展開、アプリケーション、およびデータの管理は、異なるツール、プロセス、管理インターフェース、およびスキル要件を必要とする非常に複雑なものになる場合があります。これによりコスト増となり、サービス・レベル、ビジネスの俊敏性やカスタマー・エクスペリエンスに深刻な影響を与える可能性があります。このことが理由で、多くの IT リーダーは SAP のような高度にカスタマイズされた、広範囲に及ぶシステムをクラウドに入れることには躊躇します。失敗した場合のリスクが高過ぎるように思われるのです。優良なクラウド・マネージド・サービス・プロバイダーは、この障壁を越えてクラウドによる効果がエンタープライズ・ワークロードに導入されるよう、支援することができます。

すべてのプロバイダーが完全なマネージド・クラウド・ソリューションを提供できないのはなぜでしょうか?

エンタープライズ・クラウドの展開や管理は、多くのクラウド・プロバイダーが提供する IaaS オフリングを超えたものである、というのが事実です。多くのプロバイダーが、自身のポートフォリオ外のところでは深みに欠けており、ハードウェア・レベルからミドルウェアやデータベースに至るクラウドを管理することができない可能性があります。この場合、管理はお客様に任されるか、またはサード・パーティーによりサービスと経験のギャップが埋められることとなります。標準化することもまた、難しいかもしれません。プロバイダーには、ビジネスに最重要なアプリケーション用に一貫性のある効率的なサービス管理を可能にする IT Infrastructure Library (ITIL) ベースのプラクティスがないかもしれません。



インフラ、プラットフォーム、
アプリケーションのサポートと
いった、クラウドをエンドツーエ
ンドで管理するスキル



エンドツーエンドの管理、インフラ、プラットフォームそしてアプリケーション・サポート

クラウド管理について聞くべき質問

「IaaS と PaaS、両方のクラウド・スタックをすべて管理できるプロバイダーですか？」

企業がクラウド・マネージド・サービス・プロバイダーとパートナーを組む理由の1つに、コスト、複雑性、生産性へのリスクや影響、そしてサービス・レベルなどを管理する負担を和らげる、というものがあります。しかし中には、インフラとその上で実行されるプラットフォームの両方にまで及ぶことなく、途中までしか担当しないベンダーもいます。このようなベンダーはサード・パーティーに頼るか、またはお客様が必要とするサービスをまったく提供しない可能性があります。

エンドツーエンドで管理される環境を探しましょう

プロバイダーがいるのであれば、インフラストラクチャーからOS、ミドルウェアそしてデータベースまで、さらにはアプリケーション環境まで、すべてをカバーできるはずですが、お客様のスタッフは日常の管理業務に集中する必要はなくなるため、イノベーションや競争上の優位性を獲得できるような、より価値の高いプロジェクトに時間を費やすことができます。

「管理プラクティスはどれくらい堅固なものですか？」

クラウド・インフラとその上のプラットフォームを包括的にベスト・プラクティスで管理することで、ITスタッフの業務削減、生産性の向上、より高いレベルのサービスを実現することが可能になります。これにより、顧客の期待値を確実に満たし、サービスの提供やコストに関するビジネス目標を達成することができるようになります。

標準とされる規格に沿った一貫性のある管理を確認しましょう

プロバイダーは、均一にエンドツーエンドの管理を行うために、ビジネス、IT、および運用上のサポートを1つにまとめる共通の管理プラットフォームを使用しなければなりません。すべての管理プロセスはITILに準拠していて、現在の業界のベスト・プラクティスに確実に従ったものである必要があります。これはつまり、効率性と効果を向上させる高度な自動化を伴った、一貫性と再現性ということなのです。



エンドツーエンドの管理、インフラ、プラットフォームそしてアプリケーション・サポート

「IT スタッフのためにタスクを単純にすることはできますか？」

完全なマネージド・クラウドでも、IT スタッフはプロビジョニングや構成などの手順を実行しなければなりません。管理インターフェース、プロセスやスキル・セットが複数あると複雑性やコストが増えることになり、生産性が落ちかねません。よりシンプルでなければならないところで、クラウド・リソースへのアクセスやスタッフが担当しているタスクの達成が、さらに難しくなっています。

自動化と合理化が進んでいるクラウド管理を探しましょう

ベンダーは、管理対象環境やすべてのサービスに迅速にアクセスできる、シンプルなセルフサービスのインターフェースを提供できなければなりません。このようなインターフェースであると、スタッフはハードウェア、CPU、メモリーやストレージを、サービス・レベル、OSやアプリケーション・モニタリングのようなオプション・サービスと合わせて選択することができます。自動化と一元的な管理ツールの機能で、市場に出すまでの時間を早め、DevOps により生産性を強化することができます。

「エンタープライズ・アプリケーションをフル・サポートできるプロバイダーですか？」

企業は、自社のデータに加えて SAP や Oracle のようなクラウド化が可能なエンタープライズ・アプリケーションを利用することで、ビジネス価値を大きく向上させています。しかし、これは IT の新たな課題を生み出してもいるのです。コア IT インフラと並行してアプリケーションやデータベースも加えて、クラウド展開を管理、保護することです。中には、これらの環境へフル・サポートを提供することに困難を覚えるクラウド・プロバイダーもいます。

主なエンタープライズ・アプリケーションに関して専用サポートを探しましょう

これらのエンタープライズ・アプリケーションのユーザーに対して、ベンダーはサービスとして管理されている、エンタープライズ・プラットフォーム全体をサポートする必要があります。コア・インフラやエンタープライズ・プラットフォームのコンポーネントを含め、上層のスタックまで管理できるベンダーは、サービス・レベル・コミットメントの維持を、より巧みに支援することができるでしょう。このコンポーネントとは、SAP BASIS やデータベース層、SAP、SAP HANA および Oracle を含むエンタープライズ・アプリケーションのための、ビジネス中心の SLA などです。



エンドツーエンドの管理、インフラ、プラットフォームそしてアプリケーション・サポート

「そのプロバイダーは、お客様のクラウド対応のワークロードをプロバイダーの環境へと移行支援ができますか?」

迅速かつ効率的にビジネス・ニーズに対応するために、主要なエンタープライズ・ワークロードをクラウド環境に「Lift and Shift」することが求められています。しかしながら、貴重な IT リソースを消費するこの動きは、生産性に影響する複雑なプロセスとなりかねません。お客様が選択した OS をサポートしないプロバイダーであれば、これを全く達成できないかもしれません。

クラウドへの移行を楽にすることができるかを確認しましょう

プロバイダーは、標準化した反復可能なプロセスと自動化による、専用サービスを提供する必要があります。これは、移行を単純化して、アプリケーションの再インストールよりも移行コストを小さくするためです。またプロバイダーは、既存のアプリケーション構成をお客様が維持できるようにして、SAP のような、カスタマイズされたアプリケーションの高価で時間のかかるアップグレードを押し付けるようなことがあってはいけません。

「プロバイダーに管理してほしい内容を選択できますか?」

プロバイダーが、基本的なインフラからその上で実行されるプラットフォームに渡って堅固なマネージド・サービスを提供しなければならない一方で、お客様は、希望しないまたは必要のないサービスを受けるよう強制されることがあってはいけません。社内コンプライアンス、セキュリティー、または組織的な理由により、一部の管理アクティビティーと責任については、お客様の IT スタッフが担っておくことが望ましい場合があります。

管理の柔軟性を確認しましょう


プロバイダーは、クラウド環境の管理方法をお客様が選べるようにしなければなりません。フル・セットのサービスを提供しつつ、かつお客様が望む場合は可能な限り最大限まで管理タスクをお客様が実行できるようにしなければなりません。アンマネージド・インフラまで含めた複数段階のサービスを探しましょう。これにより、受けるサービスとお客様の個々のビジネス・ニーズをマッチングできるようになります。

グローバル拠点: そのプロバイダーは場所、方法に関して、求めることに応えているだろうか?

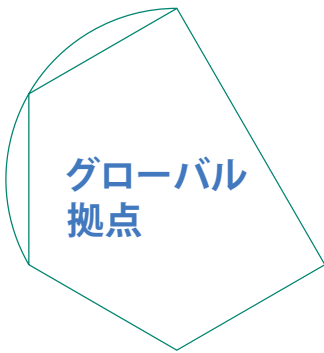
グローバル化は、企業に新たな課題をもたらしました。世界中で運用されているものには、場所を問わずサービス、サポート、およびクラウド環境の一貫性が求められますが、法規やサービスを提供するクラウド・プロバイダーの能力においては、大きな違いに直面することになります。直面する課題は地域ごとに異なると考えられますが、クラウド環境が異なることがあってはいけません。

すべてのプロバイダーがグローバル・レベルで一貫して提供できないのはなぜでしょうか?

プロバイダーによっては、1つの地域に労力を注ぐものもあります。またはグローバル化を目標としていても、サード・パーティーのデータ・センターに依存しなければならぬものもあります。グローバルな規模で堅固なセキュリティを備えた、標準化されたコスト効率のよいクラウドを提供できるプロバイダーは、ほとんどいません。これは多国籍企業にとっては重要な要件です。この要件を満たさないプロバイダーを選択した企業は、様々なクラウド環境とベンダー関係をパッチワークのように継ぎはぎして採用することを強いられるかもしれません。これは、コストだけでなく、コンプライアンスやセキュリティのリスクも増加させることとなります。



法規制やビジネス要件が重要な地域でのデータやアプリケーションのハウジング



グローバル 拠点

法規制やビジネス要件が重要な地域
でのデータやアプリケーション

グローバルな提供について聞くべき質問

「法規制により、特定の地域内でデータを保存
するよう求められています。そこにデータ・
センターはありますか？」

データの主導権に関連して、ビジネスが行われている場所にデータを置くことが要求されることがよくあります。つまり、グローバル企業にとって、データが存在する場所は重要な選択基準となるということです。クライアントが必要とする場所にデータ・センターを持っていないクラウド・プロバイダーの場合、インフラやサポート能力がビジネス・ニーズと合致していないサード・パーティーを利用しなければならない可能性もあります。これによりセキュリティに関する懸念が増え、重要な SLA が影響を受ける可能性があります。

グローバルなデータ・センター・ネットワークを探しましょう

プロバイダーは、お客様が必要としている場所に、自身のスタッフが所有し運用するデータ・センターを持っていない限りなりません。プロバイダーがサービスを提供していない場所で特定の要件によりホスティングが必要になった場合は、厳格な承認プロセスで、使用するデータ・センターがお客様のインフラ、SLA、コスト、セキュリティの条件を満たしていることを確認できるようにしなければなりません。

「プロバイダーのデータ・センター群や複数の
管理サービスはすべて同じ内容ですか？」

グローバル企業は、場所を問わず、ビジネスや顧客に一貫性のあるエクスペリエンスを提供する必要があります。国境は関係ありません。そのエンタープライズはどこでも同じように見えなければなりません。クラウド・プロバイダーがどこでも同じ環境、管理サービス、規格やデリバリー・メソッドを提供できないのであれば、一貫性を達成するのは困難です。

場所を問わず同じクラウド・エクスペリエンスを求めましょう

プロバイダーは、アジアでも、北アメリカまたは別の場所でも、お客様が契約したクラウドを提供する必要があります。世界中で均一なサービス・レベルと提供を実現できるように、標準化されたサービスや管理とインフラで、一貫性のある、1つのチーム、1つのプラクティスからなるアプローチを探してください。



グローバル 拠点

法規制やビジネス要件が重要な地域
でのデータやアプリケーション

「もしデータ・センターのデータを別のデータ・センターに移さなければならない場合はどうしますか？」

大容量のデータを1つのロケーションから別のロケーションに転送すると、プロバイダーによっては転送コストが著しく増加することになる場合があります。またインターネットを使用しなければならない場合は、データがインターセプトされるリスクも増えることとなります。これによりビジネスの俊敏性が失われるかもしれません。なぜなら、ビジネス面から見てデータを移行する妥当性があったとしても、財務上やセキュリティの面からは、データを移行させない強い誘因となるからです。

自前のグローバル・ネットワークを持っているプロバイダーを探しましょう

プロバイダーは、すべてのデータ・センターにつながった、プライベートなグローバル・ネットワークを持っていないなりません。このようなプロバイダーを選べば、俊敏性はより一層高まり、変化の大きな市場状況、ビジネスや法規からのニーズに対応することができるからです。セキュアなプライベート・ネットワークなら、代替サイトからの迅速な回復を可能にし、災害復旧機能を強化することができます。

「もしデータ・センターのパートナーがビジネスを止めてしまったらどうしますか？」

グローバル・データ・センター・ネットワークの構築をサード・パーティーに依存することは、新たなリスク要因となります。そのクラウド・プロバイダーは、サード・パーティーの信頼性をコントロールしきれないかもしれません。さらにお客様のデータ保護に関する責任を負うことを避けようとする可能性もあります。

自前のデータ・センターにお客様のデータを保存できるプロバイダーを探しましょう

データ・センターのグローバル・ネットワークを所有し、運用しているプロバイダーは、サード・パーティーに依存する必要がありません。誰がインフラの可用性を提供し、お客様のデータを安全に保護しているか、正確に理解しておいてください。また、お客様の依頼がない限り、データが指定の場所から移動されないことを確認してください。

他社が及ばないところでも、 IBM ならサービス提供

堅固な IaaS とフル・セットのマネージド・サービスを組み合わせた IBM Cloud Managed Services は、エンタープライズ・クラスのパフォーマンスのために構築された、生産準備の整ったクラウド環境です。これが、オンプレミスまたはオフプレミスに関わらず目的に適した、エンタープライズ・クラウドのニーズへの答えです。以下のことを提供します。

コンピュー、ストレージ、ネットワークの構成に関する幅広い選択肢で高い柔軟性、拡張性、および可用性を備えています。Linux、Windows および IBM AIX をサポートし、複数のデータベースやミドルウェアのオプションがあります。

セキュリティのベスト・プラクティスで脆弱性のスキャンや物理的侵入からの保護を行います。

災害復旧をグローバルな規模で、フェイルオーバーやフォールバックを用いて実現します。

コンプライアンス・サービスはプライバシー保護に関する厳しい規格を満たしています。

SAP、SAP HANA および Oracle のためのソリューションやその他の ERP や CRM ワークロードなどお客様自身のアプリケーションをクラウドで利用できるようにします。

IBM Cloud Managed Services: エンドツーエンドのクラウド

- インフラ、変更管理、構成、セキュリティのモニタリングやパッチ適用、資産管理および OS パッチのための、統合マネージド・サービス
- 一貫性のある、簡単に使用できる、セルフサービスの一元化された管理ポータル
- 完全にマネージドな高可用性、バックアップ、災害復旧ソリューション
- 管理されたデータベースとミドルウェア
- 幅広い導入オプション - お客様のサイト、IBM データセンター、認定されたサードパーティー、共有型または専用型
- ERP ワークロードのためのアプリケーション管理サービス
- アプリケーション・レベルまで SLA の選択

IBM はお客様のクラウドの旅の 始まりから移行そして目的地を 理解

お客様のような企業がクラウド・マネージド・サービスに目を向けるのは、クラウドへ移行する際の支援が必要と思うからです。その旅をスムーズに早く終わらせることができるよう、IBM Cloud Managed Services はクラウド、エンタープライズ・コンピューティング、セキュリティー、ビジネスのトランスフォーメーションにおける IBM の豊富な経験の上に構築されています。IBM は、クラウドへの旅のコントロールを最初から最後まで支援するパートナーです。オンプレミスとクラウド展開の両方に関する知識、レガシーやクラウド上でのアプリケーション、加えて計画立案、移行、マイグレーションや変更管理において実績に基づく専門知識を使って、お客様を支援します。

IBM は、クラウドへ移行することは、インフラの管理サービスを越えた旅であるということを理解しています。

- クラウドに適したアプリケーションの評価と選択
- アプリケーション移行のための計画立案と準備
- アプリケーションとデータのクラウドへの移行
- クラウド・インフラの管理
- クラウド内のアプリケーションの管理
- クラウドの継続的な最適化

IBM を他のプロバイダーと比較してみてください。他のプロバイダーには、定まらない部分がいくつかあることに気がつくでしょう。エンタープライズ・グレードのワークロードをクラウドに移行するのに必要なサービスをすべて網羅するためには、複数の専門的なパートナーが必要となるプロバイダーもいるかもしれません。すべてが準備できてから、マネージド・サービスやお客様のビジネス目標を達成するのに必要な専門家が追加されます。

検討中のクラウド・マネージド・サービス・プロバイダーへの質問リスト

質問項目:	プロバイダーからの回答
<h2>選択</h2> <p>エンタープライズの基幹業務コンピューティングにおける、あなたの これまでの実績 を教えてください。</p>	
選択したテクノロジーとデプロイメント・モデルをサポートできますか?	
インフラ、プラットフォーム、マネージド・サービスなど、 必要なものをすべて 提供できますか?	
<h2>セキュリティ</h2> <p>物理的および IT の セキュリティ は私の会社の基準を満たしていますか?</p>	
セキュリティとサービスのレベルに対する 責任 はどこまでですか? そして私の会社はどこから責任を持ちますか?	
災害復旧 の能力はどれくらいありますか?	
<h2>管理</h2> <p>私の会社の環境を管理するということは、正確には 何を管理する ということですか?</p>	
契約するのは 1つの企業 ですか? または複数の企業 ですか?	
どれくらいうまく、そしてどの範囲まで、 エンタープライズ・アプリケーションのサポート をしますか?	
管理において 柔軟性 はありますか? 私の会社が管理するタスク、プロバイダーが管理するタスクを我々が選択できますか?	
<h2>グローバル拠点</h2> <p>グローバルな規模 で私の会社のニーズを満たすことができますか?</p>	
私の会社が必要とする地域 にデータやワークロードを置くことができますか?	
私の会社が必要とする地域では、保証内容を満たすために、 サード・パーティーの支援 を必要としますか?	

さらに詳しく

IBM Cloud Managed Services の 詳細

IBM Cloud Managed Services のサイトをご覧ください >

[ibm.com/cloud-computing/jp-ja/services/
cloud-managed-services/](https://ibm.com/cloud-computing/jp-ja/services/cloud-managed-services/)

IBM Cloud Affinity Analysis が必要な方はこちらです >

クラウドの採用において早期に成功を収めるためにはどのワークロードが最適か、理解を深めてください。IBM の専門家がお手伝いします。IBM Cloud Affinity Analysis は、低コストの、対面式のアセスメントです。指定されたワークロードの質に関する分析を行います。これには、ワークロードのクラウドへの全体的な親和性、クラウドへの移行によるメリットおよびデメリット、そしてパブリック、プライベート、または管理対象ホスト環境のどれに適しているのかなどが含まれます。



日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510
東京都中央区日本橋箱崎町19-21

IBM のホームページは以下をご覧ください

ibm.com

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Bluemix、IBM Cloud Managed Services、IBM UrbanCode、IBM Watson、IBM z Systems および POWER は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、次の Web サイトをご覧ください。ibm.com/legal/copytrade.shtml

本書の情報は最初の発行日の時点で得られるものであり、予告なしに変更される場合があります。すべての製品が、IBM が営業を行っているすべての国において利用可能なものではありません。

記載されている性能データとお客様事例は、例として示す目的のみ提供されています。実際の結果は特定の構成や稼働条件によって異なります。IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本書に掲載されている情報は特定物として現存するままの状態を提供され、第三者の権利の侵害の保証、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されています。

IBM 製品は、IBM 所定の契約書の条項に基づき保証されます。

お客様は自己の責任で関連法規を遵守しなければならないものとします。IBM は法律上の助言を提供することはいたしません。また、IBM のサービスまたは製品が、お客様がいかなる法規も遵守されていることの裏付けとなると表明するものでも、保証するものでもありません。IBM の将来の方向性および指針に関する記述は、予告なく変更または撤回される場合があります。これらは目標および目的を提示するものにすぎません。

© Copyright IBM Corporation 2017



Please recycle

¹ クラウド・ベース・マネージド・サービス: IT 部門の改革に役立つプロバイダーを選択するためのヒント. Frost & Sullivan. 2016 年 6 月。

² Ibid.

³ 境界線の再定義: グローバル経営層スタディーからの洞察. IBM Institute for Business Value. 2015 年 11 月。

⁴ 予算の超過を回避する: クラウド IT 経済の評価ガイド. Frost & Sullivan. 2016 年 6 月。